

高気温が高く、最低気温が低い内陸型を示し、年降水量はほかの平野部より多く、特に夏季には多い。

### 第三節 福岡県の季節の変化

東に世界最大の海洋である太平洋、西に世界最大の大陸であるユーラシア大陸に挟まれ、かつ周囲を海に囲まれた日本列島は、世界の中緯度帯のなかでも特異的な気候を示す。それは四季の変化が際立っていること、それぞれの季節に特有の気候が現れることである。

ここでは春夏秋冬の四季に、雨季としての梅雨、秋霖の季節を加え、六季として福岡県の季節の変化を述べる。この項の記述には福岡管区气象台（一九九〇）に負うところが大きい。

#### 一 春

二月中旬になると気温はゆっくり上昇を始め、福岡の日最高気温は一〇℃を超えるようになり、三月下旬までは時々寒の戻りを繰り返しながらに暖かくなっていく。西高東低の冬型気圧配置はしだいに少なくなつて、日本付近を移動性高気圧と低気圧が交互に通る、天気は周期的に変わるようになる。

春といえば穏やかな季節という印象があるが、日本の上空にはまだ冬の寒気が残り、春の大雪、春の風な

ど天気や気温の変化が激しい季節である。春一番は、立春から春分までの間に広い範囲で初めて吹く南よりの暖かい強い風であるが、海難、なだれ、フェーンによる大火、突風による被害など大きな災害を引き起こすことがある。福岡県をはじめ、九州地方北部の春一番の平年値は二月二十三日である。また、二月から三月にかけては、太平洋側で大雪となることがあり、春の大雪と呼ばれている。

また、春は移動性高気圧に覆われる日が多く、一年中で最も空気の乾燥する季節でもある。春がすすみ、五月中旬になると夏日も現れて、日中は汗ばみ、初夏を感じるようになってくる。

## 二 梅 雨

梅雨は、東アジアだけにみられる特有の現象である。暦のうえの入梅は、六月十一日ごろだが、気象上の梅雨入りや梅雨明けは、地域や年によって異なる。

梅雨季の天気図の特徴は、北のオホーツク海高気圧から吹き出す冷たい気流と、南の太平洋高気圧から送り込まれる暖かく湿った気流との間に、東西に長く伸びた梅雨前線ができることである。この前線に沿う雲の帯は、ベンガル湾から中国、日本を通り、千島列島まで延びている。中国ではこれをマイユと呼んでいる。梅雨末期に、梅雨前線に向かって南の海上から高温多湿の気流(湿舌)が流れ込み、集中豪雨や大雨を降らせ、大きな災害を引き起こす。

日本各地の梅雨入り、梅雨明けの平年値(第1表)をみると、五月中旬に沖縄や奄美諸島をスタートした